



- 1 気象概況（6月前半：果樹研究所）
6月前半の平均気温は、1半旬が21.8℃で平年より2.9℃高く、2半旬が19.4℃で平年より0.1℃高く、3半旬が20.8℃で平年より1.1℃高く、この期間の降水量は70.5mmで平年の183%でした。
- 2 土壌の水分状況（6月16日現在）
果樹研究所における土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培りんご園）は、深さ20cmが2.6、40cmが1.5、60cmが2.0で、深さ20cmは乾燥状態ですが、40cmと60cmは摘湿状態です。
- 3 生育状況（果樹研究所）

(1) もも

ア 果実肥大（6月15日現在 暦日比較）

「あかつき」の縦径が44.5mmで平年比106%、側径が41.4mmで平年比109%、「ゆうぞら」の縦径は43.8mmで平年比102%、側径が38.2mmで平年比106%と各々平年より大きい状況です。

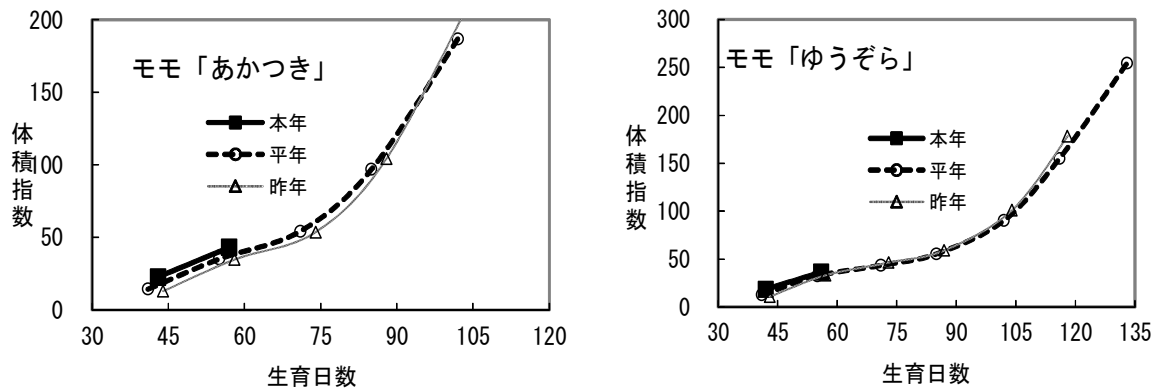


図1 ももの果実肥大

- イ 新梢生長（満開後51日 品種：あかつき）
新梢長は平年比76%と短く、展葉数は平年比92%と少なく、葉色（SPAD値）は平年比97%とやや淡い状況でした。
- ウ 核障害の発生（満開後55日 品種：あかつき）
核頂部亀裂の発生率は60%で平年よりやや多いが、縫合面の割裂は見られていません。
- エ 硬核期開始日と収穫期予測（品種：あかつき）
硬核期の開始日は6月8日で、平年より3日早い状況でした。
また、6月16日現在、DVRモデルによる収穫期の予測では、収穫開始は8月2日頃、収穫盛りは8月5日頃で、平年並から1日程度早まる見込みです。

表1 ももの新梢生長（満開後50日比較）（平年：1996年～2013年）

	新梢長(cm)			展葉数			葉色(SPAD値)			新梢停止率(%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
あかつき	7.4	9.8	76	12.2	13.2	92	40.2	41.6	97	65.0	28.3	230
ゆうぞら	17.2	9.7	177	14.5	12.7	114	39.3	41.6	94	6.7	37.2	18

※ 平年値：1987年～2011年の平均値

表2 もも「あかつき」の発育予測（6月16日現在）

品 種	硬核開始日			収穫開始日			収穫盛日		
	本年	平年	平年差	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差
あかつき	6/8	6/11	3日早い	8/2	8/2	平年並	8/5	8/6	1日早い

注) 発育速度（DVR）モデルによる発育予測。平年は1981年～2010年の平均。

(2) なし

ア 果実肥大 (6月15日現在 暦日比較)

「幸水」の縦径は28.7mmで平年比110%、横径が32.7mmで平年比109%、「豊水」の縦径は30.5mmで平年比110%、横径が32.6mmで平年比112%と、各々平年より大きい状況です。

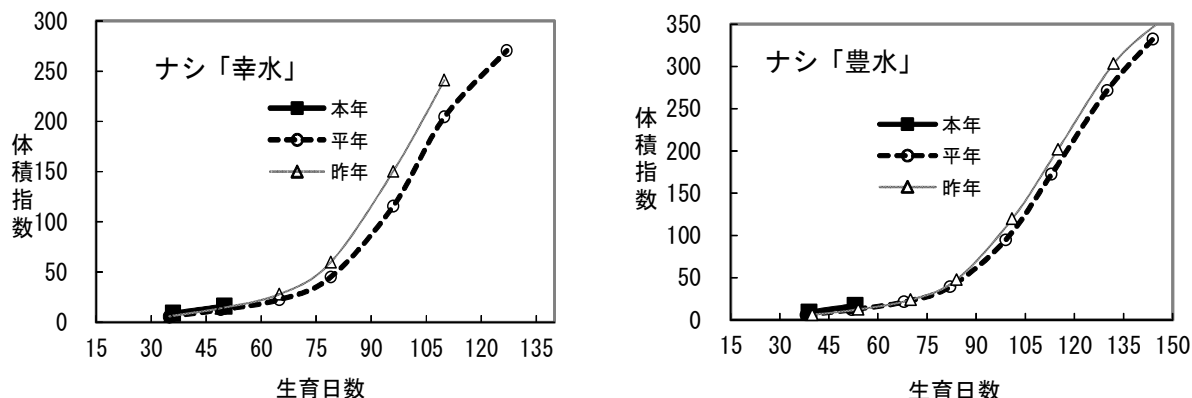


図2 なしの果実肥大

イ 新梢生長 (満開後50日 品種: 幸水)

予備枝新梢長は平年比112%と長く、不定芽新梢長も平年比115%と長い状況です。

ウ 生育予測 (6月16日現在 品種: 幸水)

DVRモデルによる裂果期の予測は、7月12日頃で平年より3日早いと予測されます。また、収穫盛期は8月30日頃で、平年より3日早いと予測されます。

表3 なし「幸水」の新梢生長

満開後 日数	予備枝新梢長 (cm)			不定芽新梢長 (cm)			予備枝葉数 (枚)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
50	89.0	79.2	112	81.0	70.3	115	24.1	22.5	107

※ 平年値: 新梢長は1990年~2012年、葉枚数は1998年~2012年の平均値

(3) りんご

ア 果実肥大 (6月15日現在 暦日比較)

「つがる」の縦径は38.2mmで平年比99%、横径が42.2mmで平年比102%とほぼ平年並、「ふじ」の縦径は36.9mmで平年比103%、横径が38.7mmで平年比109%と平年より大きい状況です。

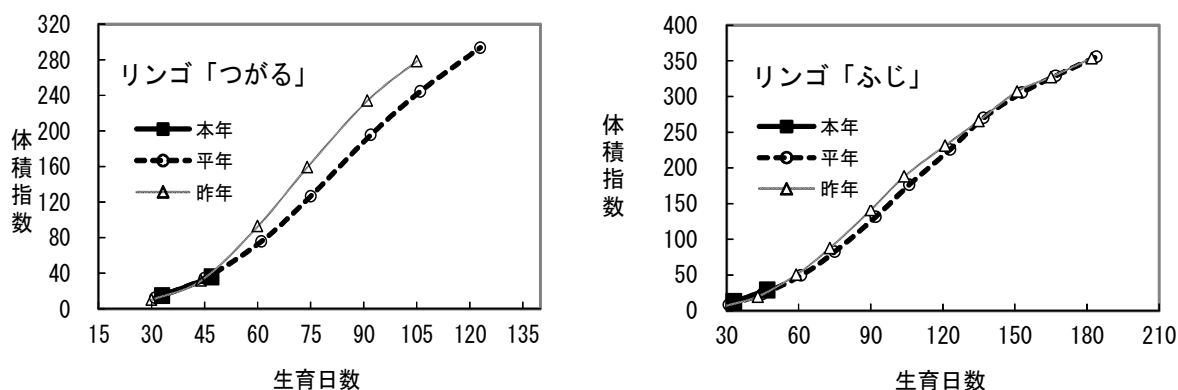


図3 りんごの果実肥大

イ 新梢生長 (満開後40日 品種: ふじ)

新梢長は平年より長く、新梢停止率は93%でほぼ新梢停止期となっています。

(4) ぶどう

ア 開花状況

「巨峰 (無核栽培)」の開花始めは6月5日、開花盛期は6月10日で各々平年より1日早

- い状況でした。
- イ 新梢生長（発芽後50日 品種：巨峰）
新梢生育を過去4年間と比較すると、新梢長は直近3年では最も短く、展葉数はほぼ同等となっています。

表4 ぶどう「巨峰（有核栽培）」の新梢調査結果

発芽後 日数	新梢長 (cm)				展葉数 (枚)			
	H26	H25	H24	H23	H26	H25	H24	H23
50	49.3	65.3	63.2	68.6	11.8	11.3	12.7	13.3

※発芽日は、H26；4月17日、H25；4月18日、H24；4月28日、H23；4月19日

東北地方1か月予報(仙台管区气象台 平成26年6月12日発表)

今後の気温の経過は、1週目（6月14日～6月20日）は高い及び平年並の確率が各々40%、2週目（6月21日～6月27日）は低い及び平年並の確率が各々40%、3～4週目（6月28日～7月11日）は低い確率が40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○ 季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

4 栽培上の留意点

(1) もも

ア 修正摘果

硬核期が終了し、果実に肥大差が見られるようになったら修正摘果を実施しましょう。

- 特に
- ① 果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実
 - ② 果面からヤニが噴出している果実
 - ③ 果皮および果肉が変色している果実
 - ④ 果頂部の着色が早い果実

等は、核や胚に障害がある場合が多いので、これらに注意して摘果を行いましょう。

また、核障害の発生が多い園では、修正摘果は2～3回に分けて実施し、形質の良い果実を残すように努めましょう。

イ 着色管理

枝吊りや支柱の設置、夏季せん定及び反射シートの設置等の収穫前の管理作業は、時期が遅れないよう計画的に実施しましょう。

ウ 収穫上の注意

核障害のある果実は胚に障害が見られることが多い傾向があります。硬核期以降に胚が障害を受けた場合、多雨条件下では生理落果や早熟になる場合があることから、収穫が遅れないように注意しましょう。

(3) なし

ア 着果管理

予備摘果終了後、速やかに仕上げ摘果を実施しましょう。この際、樹勢や果実肥大の低下が見られる場合は、新梢停止期前（満開後60～70日、6月下旬～7月上旬頃）に着果数の10～15%程度を目安に摘果して着果数を制限しましょう。

イ 新梢管理

「幸水」で副芽枝新梢が多い場合は、摘心しましょう。この時、側枝基部（20～40cm）を対象に、ロゼット状の基部葉とその上位節2～3節を残して摘心すると果実肥大促進と花芽形成の効果が期待できます。

「豊水」では、満開後60日頃に新梢伸長が緩慢となる予備枝について、直ちに誘引を開始しましょう。また、下垂して向きの悪い新梢等は方向を修正しましょう。なお、側枝先端の新梢は立てるように誘引し、受光態勢や薬剤の透過を改善しましょう。

ウ 予備枝の管理

「幸水」の予備枝の誘引適期は、満開後65日頃からです（新梢の生育状況は新梢長が90～100cm、展葉節数が18～20節）ので、計画的に実施しましょう。

(4) りんご

ア 着果管理

仕上げ摘果の遅れは、翌年の花芽分化の低下の原因となりますので、満開後60日頃までに終了するよう心掛けましょう。

仕上げ摘果の程度は、「つがる」は3頂芽に1果、「ふじ」「陽光」「ジョナゴールド」等の品種は4頂芽に1果を目安に実施しましょう。

摘果に当たっては、果形や肥大状況等をよく確認し、小玉果や変形果、病虫害果等を摘果し、形質の良い果実を残しましょう。凍霜害等により結実の少ない園では、着果数の確保を優先し、著しい不良果そうを対象に摘果は最小限に実施しましょう。

イ 新梢管理

主枝や亜主枝（骨格枝）の基部付近の背面から発生した徒長枝はせん除し、受光態勢や薬剤の透過を改善しましょう。

(5) ぶどう

ア 摘房・摘粒

摘房は、果実品質の向上と他の作業労力の軽減のため有効ですので、着房させる位置を確認しながら実施しましょう。

摘粒は、実止まり確認後速やかに開始しましょう。なお、摘粒の時期が遅れると果粒同士が密着し、はさみが入りにくくなり作業性が低下するので注意しましょう。

イ 新梢管理

実止まり確認後、特に強勢な新梢や混み合っている部分の新梢を切除し、棚面の明るさを確保しましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア りんご輪紋病・斑点落葉病・褐斑病・腐らん病

梅雨期は輪紋病、斑点落葉病、褐斑病の重点防除期に当たるので防除を徹底しましょう。

また、腐らん病の発生が増加傾向にあります。枝腐らんや胴腐らんは、病患部の周囲の健全部まで5cm程度を切り取る若しくは削り取るよう心掛けましょう。

イ ももせん孔細菌病

県北地域では、5月下旬の春型枝病斑の発生ほ場割合が高く、6月に入ってから新梢葉の発生ほ場割合も高い状況となっています（病虫害防除所、平成26年6月9日付け病虫害発生予察情報注意報第2号）。

梅雨期に降水量が多いと二次感染による発病が増加するおそれがありますので、今後とも引き続き注意が必要です。園内の春型枝病斑や発病葉、被害果は徹底してせん除、摘除しましょう。

発生が見られる園では、10日間隔で同病の防除剤を散布しましょう。なお、早生種では使用薬剤の収穫前日数に十分注意しましょう。

ウ ももホモプシス腐敗病・灰星病

梅雨期はホモプシス腐敗病の重点防除時期に当たりますので、本病に効果の高い薬剤を散布するとともに、伝染源となる芽枯れや枝枯れはせん除し、園外に持ち出すなどして適切に処分しましょう。

また、灰星病は果実の成熟とともに感染しやすくなるため、薬剤散布に当たっては十分な量の薬液を散布しましょう。

エ なし黒星病、輪紋病

梅雨期は、黒星病と輪紋病の重点防除期となりますので、今後は両病害に効果がある薬剤を十分量散布しましょう。

なお、多発が予想される場合は、梅雨明けまで7日間隔で散布を行いましょう。

オ ぶどう晩腐病

開花後は本病の重点防除時期に当たりますので、落花直後の薬剤防除を徹底しましょう。

なお、果面の汚れを防ぐため、袋掛けが終わるまでは展着剤の使用を控えるとともに、幼果期頃の散布後にカサ掛けを行い、同病の対策を徹底しましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

次世代の防除適期は6月6半旬～7月1半旬頃と推定されます。

本種の発生は放任園や観賞用の無防除ハナモモ等の栽培園が影響していると考えられるため、発生源が近隣にある園地では、発生に注意しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

次世代の防除適期は6月6半旬～7月1半旬頃と推定されます。

本種の第1世代幼虫は、主にモモ等の核果類の新梢に寄生（芯折れ症状）し、第2世代以降はナシなどの果実に移行します。例年、ナシで果実被害が多い地域では、近隣のモモ園の防除も徹底しましょう。

ウ モモノゴマダラノメイガ

被害が発生しているモモ園では、他のシンクイムシ類との同時防除も含め、6月3半旬頃から10日間隔で2～3回防除を行いましょう。

被害果は見つけ次第摘除し、5日間以上水漬けにするか、土中深く埋めましよう。また、前年に被害が多発した園では袋かけを早急を実施ましよう。

表5 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成26年6月15日現在）

今後の気温 予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第2世代 成虫盛期	第3世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	6月26日	6月30日	6月17日	6月26日
平年並み	6月27日	7月2日	6月18日	6月28日
2℃低い	6月30日	7月5日	6月18日	7月1日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日 モモハモグリガ：6月1日、ナシヒメシンクイ：4月28日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

農業総合センター（本部、果樹研究所、会津地域研究所、農業短期大学校）の生育状況を掲載していますので、参考にしてください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gi-iyutu03.html#tokubetsujyouhou>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL: <http://www.new-fukushima.jp/>